

2. 都心軸の現状と課題

(1) 都心軸の現状と課題

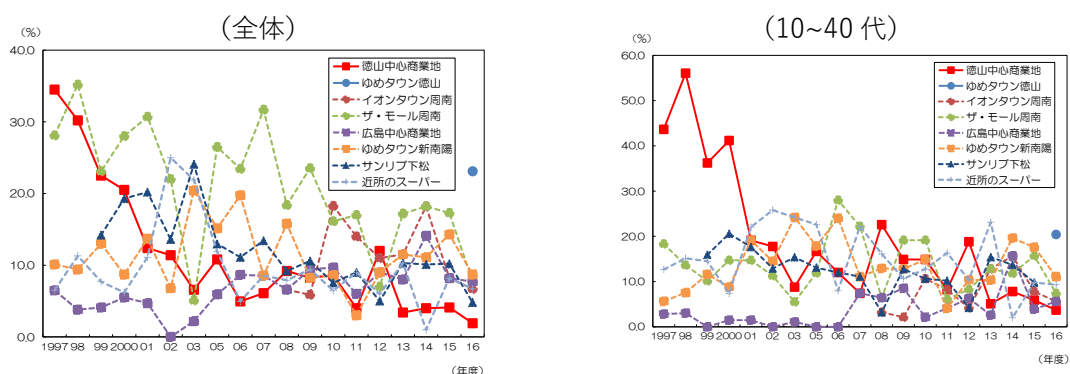
○都心軸の成り立ち

本市の市街地は、江戸時代の徳山開府に伴い、家中諸士の屋敷割が行われ、城下町としての基盤が整えられました。明治時代以降には、山陽鉄道の開業や海軍煉炭製造所が設置され、工業都市化が進み、中心市街地も地域の行政・商業・サービスの中心地として栄えました。太平洋戦争中は徳山港が海軍要港に指定されていたことから二度の空襲を受け、市街地の大半を焼失しましたが、戦災復興土地区画整理事業により、現在の中心市街地の都市基盤が形成されました。

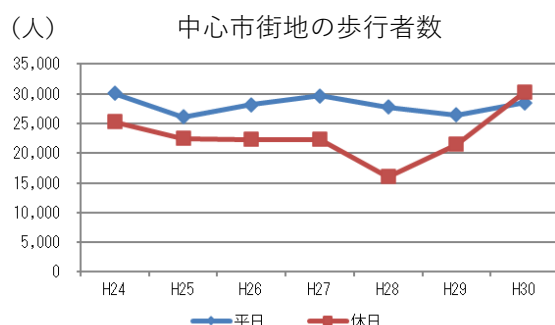
○様々な人が過ごしたくなる空間へ

都心軸は古くから商業地や業務地、住宅地が形成され、市役所をはじめ、小学校、図書館、公園、医療機関など高度な都市機能が集積し、市の中心地として発展してきました。しかし、郊外での大規模商業施設などの開業もあり、商業地としての地位が相対的に低下している状況です。近年、徳山駅周辺整備や商店街活性化の取り組みが行われており、休日を中心に歩行者数が増加するなど、新たな賑わいが生まれつつあります。人と交流ができる、ゆっくりくつろげる、様々な体験ができるなど、買い物だけでなく、多様な活動ができ、様々なライフスタイルの人が過ごしたくなる空間にしていく必要があります。

市民がショッピングを楽しむときによく行く商業地



資料：周南市中心市街地活性化基本計画

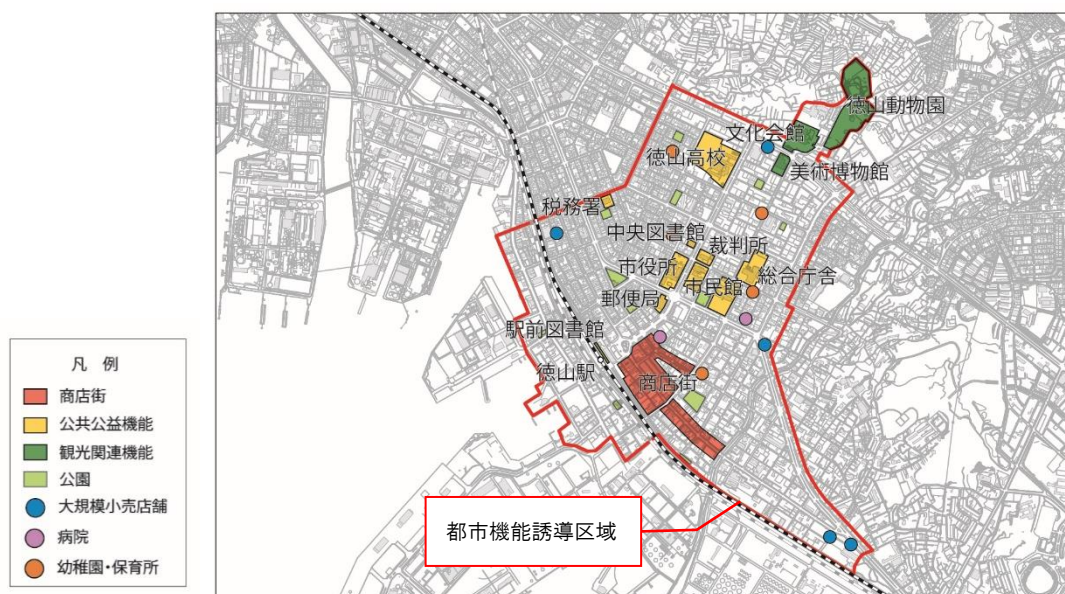


資料：周南市中心市街地活性化基本計画

○暮らしやすさ住み心地の向上

医療、福祉、商業、業務、教育、文化、行政などの都市機能が集積しており、質の高い生活サービス等が提供されています。暮らしやすさ、住み心地を高めていくためには、これらの多様な都市機能の維持と、買い物、通院、子育てなど生活利便性のさらなる向上が求められます。

主な都市機能の集積状況



○豊かな公共空間や低未利用地の活用

都市基盤の水準は高く、ゆとりのある道路や公園などが数多くあります。一方、それら公共空間は十分に利用されておらず、豊かな空間を活かせていません。また、空き地や空き家などの低未利用地が散発的に発生する「都市のスポンジ化」が進行しています。都心軸の特徴である豊かな公共空間や、十分に活用されていないストックをうまく活用し、魅力向上につなげていく必要があります。



○豊かな街路樹など景観の保全

都心軸の御幸通、岐山通には、クスノキやイチョウ、ヒマラヤスギなどの街路樹があり、緑豊かな景観を形成しています。今後もこれらを活かし、様々な幅員の道路が有する市の特徴的な景観を保全していく必要があります。



○快適な移動手段の確保

都心軸には徳山駅前図書館、動物園、文化会館、美術博物館などの魅力的な施設が集積しています。これらの施設間または拠点間の最適で楽しい移動手段、移動空間を確保することが課題となっています。

【都心軸とその周辺に位置する施設】

